



教草きょうくさ女房形氣にようぼうがたぎ八端はつたん
上 下

豊國画



一

明人謝肇淛が五雜俎卷八人事の部中妬婦の条下曰世小勇
 猛三軍と取小足も其威房闖か行いそ智謀の六合よ
 周小足りても其智紅粉の運らま憤り合衆と拵て首を挽眉と
 低甘と七之が下と為り莫可誰何の人生の一大不幸の非まやとのり
 唐土のむら如斯況今の中より以下の人中に男一足といふ狭客
 も博識と推称らる学者も其妻の常小肌の白とされて一目死
 剛舌四つ自殺し小口もせま妬婦の刻歴さそ我々二世の夫と人小嘲せ
 られ何の徳もや我心に夫を人小嘲ま朝夕の影とつを鏡に
 我の裏を添まてらるまか如し其臭気とらして此の草子にゆゑ
 と観てやたのちけとらるる

嘉永二年 巳酉孟春稿本
 同季秋上梓成春発

八十二歳
 山東老人識





